

芸術文化創造センター整備推進委員会 第2回建設計画専門分科会会議 議事録

日 時：平成25年9月17日（火）18:00～21:00

場 所：小田原市役所 7階 大会議室

出席者（敬称略）

[芸術文化創造センター整備推進委員会 建設計画専門分科会]

	氏 名	区分・専門分野	所属等
会長	仙田 満	建築学 環境デザイン	東京工業大学名誉教授 (株)環境デザイン研究所 会長
副会長	勝又 英明	建築計画	東京都市大学教授/建築学
委員	桧森 隆一	文化政策 アートマネジメント	嘉悦大学副学長/地域産業文化研究所所長
委員	市来 邦比古	舞台設備	日本舞台音響家協会副理事長
委員	三ツ山 一志	劇場運営 展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長 横浜市芸術文化振興財団

[事務局・設計者]

所属・役職		氏 名
事務局	文化部長	諸星 正美
事務局	文化部副部長	原田 泰隆
事務局	文化部管理監	瀬戸 伸仁
事務局	文化政策課長	中津川 英二
事務局	芸術文化担当課長	間瀬 勝一
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター担当副課長	志村 康次
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造係長	高瀬 聖
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係	杉山 和人
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係	府川 幸司
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係	鶴井 雅也
設計者	(株)新居千秋都市建築設計	新居 千秋
設計者	(株)新居千秋都市建築設計	吉崎 良一
設計者	(株)新居千秋都市建築設計	新居 未陸
事務局	(有)空間創造研究所	草加 叔也
事務局	(有)空間創造研究所	田原 奈穂子

[傍聴者]

5名

～次第～

1. 開会

2. 議題

(1)市民ワーキングについて

(2)第 1 回基本設計案について

(3)その他

3. 閉会

## **次第 1 開会**

### **事務局**

ただいまから、芸術文化創造センター整備推進委員会第 2 回建設計画専門分科会会議を始めさせていただきます。(資料確認)

会議の進行は、「小田原市附属機関設置条例」に基づく「小田原市芸術文化創造センター整備推進委員会規則」第 6 条の規定により分科会長にお任せしたい。

## **次第 2 議題(1)市民ワーキングについて**

### **仙田分科会長**

第 1 回は所用により出席できなかったのですが、委員長を仰せつかっている仙田です。よろしくをお願いします。

今日は、時間として午後 9 時までに、今日の会議をうまくまとめたいと思っている。では、議題に入る。議題 (1)「市民ワーキングについて」事務局から報告をお願いする。

### **事務局**

(説明)

### **仙田分科会長**

今、ご説明があったことについて、何かご質問等はあるか。市民ワーキングにご出席いただいた 3 人の委員の方もいらっしゃるが、本日は議論に時間を割きたいと思うので、次の議題、(2)「第 1 回基本設計案について」の中で、市民ワーキングの様子や、市民ワーキングのご意見などについて、あわせてお話しいただければと思う。もし、よろしければ、次の議題にうつりたい。よろしいか。

### **委 員**

異議なし。

## **次第 2 議題(2)第 1 回基本設計案について**

### **仙田分科会長**

では、次の議題にうつらせていただく。第 1 回の基本設計案についてということで、設計者である新居千秋さんから、設計案について、また、プロポーザル案からどう変更したのかもあわせて、少しご説明をお願いしたい。

### **設計者 新居千秋氏**

いつもは 40 分くらいかけて説明しているが、今日は 20 分しか時間を頂けないという

ことで、かいつまんでご説明させていただく。(第1回 基本設計案について説明)

#### 仙田分科会長

第1回の基本設計案のご説明があったが、今日この場で何か結論を出すわけではないと理解している。今後の第2回設計案、その後の市民ワーキングにうまくつなげていくよう考えていきたい。

私から事務局に一つ質問をさせていただきたい。市民ワーキングは5回予定されている。この5回が終わったところで、基本設計が決まるという理解でよろしいか。

#### 事務局

市民から意見が出る場として第5回までと考えている。

#### 仙田分科会長

例えば、第5回のワーキングの「第4回設計案について」は時期的にはいつ頃をお考えか。

#### 事務局

1月の下旬、第4回の設計案発表時と考えている。

#### 仙田分科会長

今、新居さんからご説明を頂いた際に、最初に予算の問題を指摘された。市民のワークショップの段階を経て、最終的な予算との整合性は1月から3月のこの間でやると考えてよいということか。

#### 事務局

予算については、新居さんから提案としてご意見をいただいている。ただ、どの時期にどのような予算の変更をするかについては、明確な要因がないと我々としては動けない。今はそういう状況にある。

#### 仙田分科会長

私も建築家として、今は工事費が流動的な時期であると感じている。時期として東日本大震災復興やオリンピックの招致決定などが重なり、将来的にも工事費単価が下がる要因がほとんどないという状況にある。設計者をプロポーザル・コンペで選ばせて頂いた審査委員長である私としては、とにかく予算を守って下さいと新居さんに最初から申しあげている。ただ、工事費が非常に流動的な時代である。その中で、どのように最終的に設計をまとめたらよいのか難しい。議会が工事費の増を認める状況になる可能性が

あるのか、あるいはあくまでも当初予定していたものになるのか、そのあたりがわからないと、進めづらい。

市民ワークショップでは、様々な市民の皆さんの要求が出て、それを足し算していくと、予算が膨れ上がる可能性が高いと思う。市民と皆さんと一緒に優先順位を決めていくことも、市民ワークショップの重要な仕事ではないかと思う。今の予算の中ですべてが収まるのであれば別だが、そうでなければ、第4回までの市民ワークショップの中で、市民の皆さんと一緒に、どれを残し、どれを下位とするかについては、議論していただく必要があると感じている。

今の時点では、プロポーザル案をベースに、市民の皆さんとの話し合いの中で、要望という形で、どちらかというプラスの方向に流れざるをえないと思う。ただ、今後、あと2回ワーキングがあるのであれば、そういった検討もしてほしい。

市民ワークショップで検討してきたにもかかわらず、最後に予算がないから縮めなくてはいけないという時に、市民の皆さんに裏切られた感じにならないように、その点は十分に考慮していただきたい。

## 事務局

予算については、新居さんからも伺っており、社会情勢からも、委員長のご指摘通り、非常に不透明で、おそらく厳しい状況となるであろうことは理解している。市民の皆さんも、前回の計画が白紙に戻る要因の一つとして、「市民が必ずしも求めていない要素を持った施設に高額なコストがかかる」ということに対して、当時は夕張市などの事例もあり、コストをかけることに対する懸念が市民側から表明されたということがある。市長自身もコストをできるだけ抑制していくと申し上げてきた。経済情勢が大変不透明な中で、施設をどうまとめていくかは厳しいところがある。地下街や再開発事業など小田原市の3大案件の全体の事業費、それに対しての財政出動、市債の状態なども兼ね併せて、財政当局を含めて議論をしたり、議会からのご質問に答えたりしているところである。予算的なことについては、この場で直ちに結論が出しにくい状況にある。仙田委員長のご指摘は十分に踏まえて、最後は専門分科会で議論をし、とりまとめていただいで、基本設計の最終案に持っていく。10月以降では消費税のこと等も少し見えてくるので、段階的には、我々もなにがしかの決断はしていかななくてはならないと考えている。ただし、今の段階では、我々の事情としてそういう状況である。委員の皆さんは、それを意識していただきつつも、ただし、最終的な優先順位につながる話については、基本計画がそもそも何故こう定まっているか、市民・専門委員・市が何を求めてこの基本計画をまとめたのかという部分と、書き込まれていない部分については設計者の方に委ねた部分もあるが、今後の話としてどういう使い方を想定していくかという部分をもとに、もう一度ジャッジをしていただき、この施設がどうあらねばならないかをご議論頂くのが本日の場面だと考えている。

行政としては歯切れが悪い部分もあるが、新居さんともこのお話は継続しており、いづれ、なにがしかの決断をする場面は今後ある。本日できるお返事としては、ここに留めさせていただきたい。ただ、優先順位についてのお話しは非常に貴重であり、それを踏まえた上で施設の議論をしていただくことが重要だと思う。

#### 仙田分科会長

私も今、苦勞をしている。新居さんも苦勞されると思う。市民ワークショップの場でも、優先順位を考えながら全体的なまとめがしていければよいと思う。

#### 桧森委員

優先順位の検討については、私も必要だと思う。しかし、今の段階では、基本計画がどの程度実現出来ているかも不透明な状態にある。まず大切なのは基本計画で書かれたことがどれくらい実現しているのか、そして、書かれなかったところで、市民ワーキングで後から出てきた意見がどれだけ盛り込まれるか、というのを確認していくことが大切であると思う。その後で、割り切らなくてはいけない部分については、やはり基本計画を基本にして、その中で何をあきらめるかという議論が必要になってくると思う。

スケジュール案を見ても、市民ワーキングで議論されたものが、専門分科会に上がってきて、専門分科会でそこを消化する。また、市民ワーキングでは出てきようのない意見もある。また例えばプロがここをどう使うか、という部分についてである。そういった部分についても、ここで議論をし、設計に反映させていただきたい。その次に、何をあきらめるのかという話をすべきだと思う。

#### 仙田分科会長

専門家の方は、それなりに予算等の現実的なこともよくわかっていらっしゃる。しかし、市民の皆さんが、身近な問題として予算と具体的な仕様の問題、大きさの問題などの関係性について、それほどご理解があるわけではないと思う。それを全く伝えずに、最後にどんでん返しのような形になってしまうのは避けるべきだと思う。

私としては、優先順位については少し議論をしてみた方がよいと提案する。

#### 設計者 新居千秋氏

今、市民の方とずっとお話しをしてきている。最後になって「やっぱり出来ない」と言うと、失望させてしまう。もっと、ざっくばらんに色々なことを話さなくてはいけないと思う。役所の方にもずいぶん前から言っている。今のやり方では、市民の方から「こうしてほしい」という意見が出てくる。市民の方の中には「減らしてもよい」という人もいる。しかし、それが多くの行の中の一行に入っているのです。どこを減らしてよいか、増やしてよいか、全て暗中模索である。専門委員の方もバラバラに違うことを言ってくる

る。僕は、この20年間で11のホールをつくった。2年に1つはホールをつくっている。その経験から、この建物は絶対に、今の何かを皆で話さない限り、予算を上げなければできないことはわかる。その面では僕は専門家である。みんなで話し合う中で、基本計画の中の、この部屋をお互いに少し譲り合って使えないかということをお話すれば、多大な打撃を受けることはなく、原発みたいなことにはならない。大丈夫だ、大丈夫だ、と行ってバーンと行って、あとは誰が面倒をみるのか。

今、僕が言っている警告をちゃんと聞いていただき、僕は市民の意見を無視することなく、皆の意見を聞いている。「必ず予算の中で収めろ」という仙田さんの言葉も重い。自分で、どう収められるかもわからないまま進めるとするのは、僕の性格上できない。みんなと話して、この部屋くらいは割りあってやりましょうよ、と言わせてもらう場が、僕には今、与えられていない。設計者として皆さんが言ったことを聞いて、それに単純に応えられない仕組みになっている。

#### 仙田分科会長

私が新居さんに「とにかく予算を守るように」と言ったのは、往々にして、選定委員会でアトリエ系の建築家を選んだ際に、予算をオーバーする建築家も結構いるため、「だからアトリエ系はダメだ」とよく言われてしまう。それは私としては避けたい。なので、そのように申し上げた。現状、今の時代というところについては、私自身も危機感を持っている。そういう意味では、市民の皆さんをあまりがっかりさせないためにも、ある種、優先順位的なことは考えていかないといけない。市長も、予算を自分で一気に決められるわけでもなく、利害もあり、市民の皆さんの関心もある。その中でよいものをつくっていくためには、市民の協力も得なければいけないと思う。

#### 設計者 新居千秋氏

市長も、毎回会うたびに「お金は予算内で収めて」と言われる。僕は、その中でどうするかを頑張らなくてはいけないのが辛いところだ。

#### 仙田分科会長

そのような議論も必要であり、しかしやはり最終的には新居さんに頑張ってもらわなくてはいけないと思っている。

では、次に、今、新居さんに20分で説明していただいた設計案について、委員の皆さんからご意見を頂きたい。

#### 市来委員

新居さんからもご説明があったが、まず、市民とお話しをしていて気になったこととして一つは全体の動線についてである。お客さまの動線と、ここで暮らしていくという

か、ここで作業をして作品をつくっていく方たち、それから鑑賞型の作品を招聘する時のプロフェッショナルな出演者やスタッフの方たち、その動線が、ワークショップなど普段使いする人とあくまでもプロフェッショナルな裏方の部分、そういう表と裏が、今一つまだわかりにくい印象がある。

例えば、楽屋口からの裏動線なども問題があると思っている。今、おそらくまだ検討されている途中であり、今の段階では答えは出にくいと思う。以前にも2階へのアクセスはつくれないのかということを上申したが、それも議論の途中だと思っている。

#### 設計者 新居千秋氏

設計上、変な部分があれば、今、ご指摘いただきたい。

#### 市来委員

楽屋口がトラックの搬入口にあり、楽屋口から楽屋への動線も荷捌きを通るため、例えば子ども達が出演する場合に、通ったりするのに危ないのではないかと思う。

#### 設計者 新居千秋氏

倉庫が足りないというご意見が多かったので、大ホール南側の駐車場側の諸室を現在改良している最中である。子どもや体の弱い人は駐車場からの出入口を考えている。大道具が着いた時にチェックする人がいるので、搬入口に楽屋事務所を設けている。

また、全体の敷地にレベル差があり、80cm くらいの段差がつく部分も出てくる。

また、小ホール楽屋の2階、ワークショップルームのあたりに階段があるとよいのではないかというご意見も伺ったので、現在改良している最中である。

#### 市来委員

2階のワークショップルームなどの多目的性のある部屋、プロポーザル時の案と比較して、楽屋としても使えるのではないかと考えていた部屋が無くなった。今の設計案でも2階の諸室をそういう部屋として使えるように、小ホール楽屋の廊下からあがってくるルートをつくれれば、ワークショップルームが多目的に使えるだろうという提案をさせていただいた。

#### 設計者 新居千秋氏

今、変更にとりかかっている。面積は少し増えてしまう。

#### 市来委員

面積を増やさずにできないか。鉄板の階段でもよい。



### 設計者 新居千秋氏

それは難しい。また、2階に機械室があるが、機械のメンテナンスが必要である。何十年たっても、まわり中を囲まれた建物でもメンテナンスできるように考える必要がある。また、1階の大スタジオ・中スタジオまわりの整理も考えている。あと、倉庫を何とか150㎡くらいまで広げられないかと考えている。

### 市来委員

小ホール側の倉庫はどうなっているか。

### 設計者 新居千秋氏

2カ所もうけている。ピアノ庫は別である。その通路の先に、管理事務室があり、30人と書かれているので、今は30人と、その人達のトイレ、その先に打ち合わせ室などが少し兼用して使えるような形になっている。倉庫については、アート系の方達のものもあるので、それについては、どこかで誰かが折り合ってくれないかと考えている。

折り合っただけの案を考えている最中である。階段、中スタジオ、倉庫などは今考えている。中スタジオ1つでも5000万円くらいするので、仕様を変えて階を変えるなども検討している。

### 市来委員

ギャラリーへの搬出入動線はどうなっているか。

### 設計者 新居千秋氏

運営で広場側から入れてもらえるように考えている。ご相談しなくてはいけないのは、このギャラリーがうんと流行った場合である。

### 市来委員

平米数とは関係のない点だと思うが、小ホール楽屋から管理事務室側への通路が非常に狭いと思っている。また、管理事務室から外側が見えないのも問題だと思っている。カウンターは一部あるが、もう少し開放的でもよいのではないか。

### 設計者 新居千秋氏

管理事務室については、今会議室が表にあるが、入れ替えることもできるし、どちらでも決めていただければすぐに対応できる。ただ、経験上、事務室で働く人の中には見られるのが嫌な人もいて、開放的につくると無理に閉めてしまう人もいる。

### 市来委員

あと、基本計画に「ミーティングルーム」という室名はなかった。

#### 設計者 新居千秋氏

アート系の人と相談しなくてはいけないが、子どもたちがアートをやるような部屋は是非つけたいと思っている。それは1階にあるべきなのか、2階でもよいのか聞いて、施設が流行った場合に混乱しそうなスタジオ周辺に少しゆとりを持たせたい。

今は4案くらいを同時に検討している。時々来る情報をもとに、入れ替えながら検討している。2階は、今の僕らの考えでは、バンドが出来るのを2室くらいと、その他は全体に色々な諸室を考えている。このあたりの計画はまだ変更を重ねる。

今、狭いというご指摘を受けた通路は、1.5mくらいで、ものを運ばずに人の動線としてだけ考えている。大ホール楽屋から大スタジオ側などのものを運ぶ通路はちゃんと幅を確保している。

大スタジオは皆さんも思い入れがあるので、何とか守れるようにし、中スタジオと左右を入れ替えた配置を検討している。ギャラリーが流行ると、常に閉じた使われ方をすることになり、施設に人がいられる場が少なくなるので、ロビーまわりを整理して、次回に市民の人と話せるようにしたいと思う。

#### 勝又委員

私はワークショップに2度出ている。先ほど仙田先生から優先順位のお話があったが、市民の方には結構理解していただいているように感じている。もちろん、まだ「これが必要だ」という人も、「これはいらぬ」という人もいる。それでも、全体的に優先順位を考えて案を考えていった方がよいというご意見も出ていた。私がワークショップに出ているのは、最終的に優先順位を誰が決めるのか、ということだ。私は、最後は市ではないかと思っている。予算なども含めて、これは止めざるを得ないだろうということ、我々がアドバイスをしたり、市民の方々とディスカッションすることは当然必要だが、最後は施主として市が責任を持って決めることが重要だと思う。先ほどの新居さんの説明で、「共用する」というのは非常に大切だと思った。倉庫も狭いと言われているが、それなりに点在してある。それぞれの倉庫に何をどう入れるのかシミュレーションして、どれだけ足りないのかが明確になる。総合的に考えて議論していくことが大切だと思う。

共用についても、優先順位についても、管理運営計画でどのような演目を優先的にやっていくのかで判断しなくてはいけない部分も出てくると思う。本当は今日の分科会と管理運営の分科会が積極的に絡んでいくとよいと思う。

#### 桧森委員

どういうものをやるかについては、次回、市民ワーキングで、私の方から提案をして、

市民の方にちょっとイメージを持っていただくように考えている。

今の時点で、優先順位以前の問題としてお願いをしておきたいことがある。お客さんの目に触れてはいけない出演者が出る可能性があるのは、大ホール、小ホール、大スタジオ、ギャラリーである。ギャラリーでも出演パフォーマンスをやる可能性があると考えている。そのそれぞれの室では、出演者がお客さんの目に触れずに移動する裏動線が必要である。それをどう確保するか。

もちろん、アマチュアの出演者や子供たちが大量に出演する時には、例えば吹奏楽コンクールなどをやる際には、必ずしもそうである必要はない。しかし、そうではない時には、アマチュア、プロ問わずパフォーマーが舞台に来るまでにお客様の目に触れずに動く部分、動線が必要である。できれば、楽屋口も分けてほしい。どうしても楽屋口が1つだったとしても、途中からは絶対に分けておかななくてはならない。いわゆる阻止線、楽屋の出入りをコントロールする線が各エリアごとに必要である。4箇所それぞれの楽屋エリアについてどうコントロールするか、これを考えていただきたい。それとは別に、それぞれに外部からの搬入動線が必要で、それもお客さんの目に触れてはならない。それは当然お考えになっていただいていると思う。

優先順位云々は別として、大ホール、小ホール、大スタジオ、ギャラリーはなくなる可能性はないので、きちんと考えていただきたい。それ以外の小スタジオや諸室については基本的に表側動線だけで問題ないと考えられる。

### 勝又委員

今、桧森委員がおっしゃった楽屋口を分けるということ、つまりゾーニングは非常に重要だと思う。それは、ぜひ、一度新居さんのところでどこまでがこのゾーンかということの色分けしていただき、見せていただければと思う。

最も心配なのは、確か以前市来委員がおっしゃっていたことかと思うが、大ホールと小ホールを同時にプロが使う場合にどうなるのかということが大切だと思う。

搬入については、時間的な話もあるので、搬入をしない時間帯にどうしても交差してしまう可能性は許した方がよいかもしれない。

### 桧森委員

私もそれは仕方がないと思う。

### 設計者 新居千秋氏

大ホール、小ホールは、裏まわりは分けられる。大スタジオもなんとかできる。プロポーザル時の案では、北側にギャラリーへの動線があった。今のような条件を皆さんがつけていくと、それを解けたとしても膨大な面積になってしまう。ある限界がある。難しいのは、展示室にも出演者がいて、その人もそのルールの中でやるのは非常に難しい

と思う。展示を大スタジオでも出来るようにというのはもともとの条件にあるので、どこかで多機能に、どちらかを変えていただかない限りは、敷地の条件からも機能の足しようがない。今は検討しているが、僕は、皆さんのおっしゃるとおりに、基本計画の中に入っている部屋をおおよそ全部残して、コストを縮めようとしている。しかし、1回何かについてお話がでると、その1箇所について50㎡くらい増えてしまう。

今、桧森委員がおっしゃった意見を満たそうとすると、広場、中庭をやめるしかない。展示室は位置的に他に置くところがない。2階に持って行くのは搬入条件上も難しい。それを皆さんとお話したい。大スタジオを展示で使うのであれば、観客が出演者を見ることがないということも満たせる。とはいえ、色々なアーティストがいるとは思いますが、僕の知っている人たちでは、多少はすれ違ってもよいという人たちもいる。

また、もともとの計画で、小ホールと大ホールは、音を分け、エクспанションジョイントで切っている。今のような話を細かくしていくと、そして、そのようなお話しが僕らのところには空文というか、また聞きのみ聞きという形で来るため、その形も一応検討しようとしていると、面積がどんどん増えてしまう。

今は、僕としては、1階にある大スタジオは動線を区切れるが、ギャラリーで行なう場合には解きようがないように思うと思う。

#### **桧森委員**

ギャラリーの搬入動線は、表からとお考えになっているという理解でよろしいか。

#### **設計者 新居千秋氏**

そうだ。また、自転車置き場を調整して両側にふることも考えているがなかなか難しい。全体には、僕らが手がけた赤レンガ倉庫も、表からドンと入るものである。そのような形でいけると考えている。

#### **桧森委員**

大ホール、小ホール、大スタジオは兎も角として、ギャラリーについての、出演者の裏動線は確かに難しいだろうと考えていた。しかし、搬入動線として、お客の目に触れずに搬入できなくてはいけない場合に、どう対応できるかを考えると、ものも人も通れる裏動線が必要だと思う。表から搬入する場合には、どのようにそれを補完しようとお考えか。

#### **設計者 新居千秋氏**

赤レンガ倉庫では、真ん中からドンと入れる。

#### **市来委員**

ギャラリーの表となるのは小ホールホワイエ側なので、広場側を裏と考えるというのは、僕は、それほど違和感なく感じられる。

### 三ツ山委員

まず、最初に申し上げたい。これは市民ホールではなく芸術文化創造センターである。市民ホールの中にギャラリーがあるのではないということは、自覚していただきたい。ホールにギャラリーもあるという、そのようなレベルのものではないということで、少し考えていただきたい。

第1回委員会の時に、ギャラリーを使っていない時もあるので、その様な時には壁をバラして中が見通せるようにしたいというお話は伺った。しかし、正面のガラスは別として、せめて三方壁、後ろと横の壁は固定壁でギャラリーとしてがっちりと造っていただきたい。その壁も動かすとはしていただきたい。それはギャラリーとして、しっかりつくっていただきたい。

表から搬入することについては、いつも悩む点がある。舞台用の搬入口には、トラックの荷台と高さをあわせた1mくらいの高さのプラットフォームがある。今の設計案ではおそらく、新居さんがギャラリーの搬入をお考え広場、控室の位置にはそれが無い。段差があるはずである。近年のギャラリーの搬入は平らなのがスタンダードである。1mの段差があれば、電動のリフターを設け、荷台とあわせた高さから荷物を降ろすやり方にすることが多い。そのようなやり方であれば、搬出入の間、雨風をどのようにしのぐか等、また苦勞する点が出てくるように思う。

控室のエリアは、表からの作品の出入りと同時に倉庫にもなり、作業の空間にもなるということであった。一度、私のところの、横浜市民ギャラリーあざみ野に来て、実際にどのような形で使われているのかを見ていただきたい。

また、移動壁は重量もあり、量もある。それらの壁をしまいこむ空間にはかなりのスペースが必要なはずである。一番奥の部分は、もう少し展示をくってしまうのではないかと思う。全体の面積でおおよそ400㎡という中で検討が進んできた。このギャラリーはプロも使うが、現在生涯学習センターけやきで行なっている市民の展示発表が小田原では一番規模が大きなものになるはずであり、それが適うかどうか、このギャラリーの検討の基準になると考える。そして、裏方のものをしまい込む部分の確保も両立させなくてはならない。

ギャラリーは、広場とガラス1枚で隔てられていて、互いに見通せるということは、市民ワーキングの中でも、冗談じゃないというご意見はあまりなく、それはそれで面白いのではないかというご意見もあったことは確かである。例えば、夜、暗い時間にギャラリーの中に灯りをつけて、中でパフォーマンスをしたりするのも面白いと思う。ただし、ホワイエ側の30mを全て壁でふさぐと言った場合、その壁は結構な量になる。その他に空間を仕切るための移動壁が必要になるはずであり、移動壁の量がすごいことにな

る。移動壁のしまいどころに苦勞されるのではないかと思う。

前庭については、表で何か自由に活動するイメージを持っている市民のご意見があった。その一つには、子どもに対する教育というキーワードがあった。子どもが来た時に中庭で何ができるのか。子どもは見るだけは苦手なので、まず「すること」が必要で、参加型、ワークショップという言葉が出てくるが、そういった場所としての確保が必要である。ある程度汚しても構わないという場所がどこにあるのか、などのご意見があった。子どもに対する教育普及的な活動の場の確保は、市民の中から出てきた大切なご意見だと思う。

### 設計者 新居千秋氏

僕はこれを設計していて、小田原の市民がどうしたいか、疑問に思っている点がある。何回も市の方に聞いているのだが、この建物は市民ホールをつくっているのか、芸術創造センターなのかというのがあり、切り方によっては、非常に特殊なものになっていく。市民の方によせていくと、普通になる。

僕らは普段、中途半端なところで、人がたくさんくる建物を目指してつくることを専門にしている。だから、色々な人がブラブラできる場所も入れたい。市民ホールと芸術文化創造センターでは内容が著しく違う。検討を進めて、芸術文化センターの格好は出来ても、実際には中に物が入らないのに、このまま進めるのかとか、全体で最後にはバラバラちぐはぐなものになるのではないかと恐れている。そこを皆で論議してほしい。そうでないと、市民の人に「これは出来ますよ」と言っておいて、最後に「やっぱりやめた」と言ったら、僕はウソつきになってしまう。そういうことはしたくない。どこを目指すかがもう少しちゃんとしていないと困る。

例えば展示場も、僕はこどもの教育などは大事だと思うので、そちらの方にいこうとする。ところが、今のお話しをうかがうと、もっと格調が高いものを展示するのにどうするかという。第1回設計案を出したら、市民の方がどこかから図面を手に入れて、そこに全部展示する絵を部屋に割り付けた図を僕はもらった。この大きさを変えない限り、絵が入らない、1~2枚足りない、というコメント付きで送られてきた。そのようなことがある。

後ろの壁については、プロポーザル案で開けるということで提案した。それが、単純に普通の赤レンガ倉庫のようなボードであれば、インボックスで閉めるものをつくれるので、そのくらいは提案しておいてよいか。それも絶対固定壁なのか。固定壁となったら、小ホールホワイエあたりの賑わいがなくなる。僕は、このあたりの総合性として、賑わいを出すには、必要と考えている。

ギャラリー、控室、小ホールホワイエまわりの整理は必要だと考えている。一つお伺いしたいのは、控室機能の一部を2階に設けてよいか。1階と2階に別れる形になってしまうが、それでもよければそのようにしたい。

ギャラリー自体は、利用形態によって5mずつきっちり分けられる必要があるとうかがった。そうすると、少しホワイエ側にふくれる可能性がある。ギャラリーと小ホールホワイエのつながりとして、今は開けば全部つながるように考えており、半分シェアしてお互いに使えるように考えている。僕はただ何か全部お金を縮めているのではない。こういったことを適当につくっているわけではなく、言われた備品が入る幅で、毎回、皆さんには同じ図面に見えるかもしれないが、600枚くらい描いて、何がどこにあるか検討しながらやっている。そうした時に、ここに展示壁がくると思う。お祭りの時など、年に何回かでギャラリーと小ホールホワイエが開いてもよいかと思う。

皆さんの意見をきくと、部屋はこれ以上縮まないの、今行き詰まっているのは、このあたりである。

### 三ツ山委員

ギャラリーとしての展示壁の最低の確保についてお話しをしている。ホワイエ側の壁は固定にしていきたい。

### 設計者 新居千秋氏

今はこの図面とは別の形で、上げて閉められるように考えているし、ギャラリー短辺両方向の壁は固定壁であり、アートで使う時には4方向ぐるっと、ちゃんとした壁が問題ない状態にすることで、プロポーザルの時のご提案のとおりにしようとしている。固定壁ということであれば、決断をしなくてはいけない。

### 三ツ山委員

固定の壁では全然目線が切れない。しかし、パネルでいくと、その縦線で目線が切れる。それが、我々が移動壁を嫌だという理由である。縦の線が入って展示壁がうるさくなってくる。市民の意見の中には、展示しやすいようにピクチャーレールを下げてくださいというご意見もあったが、そんなことをしたら横に線が入ってしまう。作品にとって目を遮るものは非常に邪魔になる。我々が、プロの展示を行なう際には、移動壁の間の隙間をテープ貼り、さらにペンキで埋めて、なるべく1枚に見えるように工夫し、展示をする。

### 設計者 新居千秋氏

では、ホワイエ側は移動壁をやめて。

### 三ツ山委員

出入口はどこかに必要になるが。

### 設計者 新居千秋氏

出入口は4つは必要になる。その間を割って、動かすのであれば、同じであると僕らは考えていた。市民の方から送られてきた絵では、えらい細かい壁がマンジのように並んでいた。どのような形にするのかを、どこかで一度検討しないと、未決のままになってしまう。

固定壁にしても、どちらにしても部屋を4分割したり、中央に壁をつくったりするために切るラインが出てくる。両側の柱の間、鉄骨の間に150くらいのレールが真ん中にあり、それを細分割していく、赤レンガのようなやり方を考えている。それがいるか、いらぬかをどこかで聞かないと決まらない。

あと、子ども達に勉強させるのは、倉庫ではまずいと思っている。その機能は階を変えられるかどうか。2階に水場のある室を1室作ればどれでよいか。

固定の壁でよいかどうか、ホワイエから外が見えなくてよいかどうかは、どこかで市民の人に決めてもらうしかないという気がする。僕は今の状態であれば4mで1枚で線が入るようなものなので、ある程度の号数まで問題なく展示できると思っている。7mを半分でわったくらいの大きさ、4mくらいの高さの移動壁の方を考えている。そのへんをどこかで市民の方に一度聞きたい。

### 三ツ山委員

ここがギャラリーでなくなるという仮定が必要か、小田原のアートシーンに、ギャラリーを使わない日は出てくるのかという問題である。

### 桧森委員

基本計画では、ここはギャラリーとなっている。四方の固定壁ということを前提としている。

### 三ツ山委員

ホワイエから表が見えるという発想が、ギャラリーの機能を犠牲にしているというお話しになる。

### 桧森委員

基本計画ではそれは想定していない。

### 設計者 新居千秋氏

それはそれで、基本計画では、四方壁としていても、僕らがプロポーザルに提出した案はこういうものであった。なので、一度会議を開いていただきたい。まず、それをどうするか決めないと色々な所が決まっていけない。400㎡を切っていくしかなくなって



いく。

### 三ツ山委員

横の壁も、移動壁を全部収納するという意味では1枚にはならない。戸袋はどこかに出てくる。

### 設計者 新居千秋氏

ギャラリーはワンボックスで何も残さないということか。どこかに何かないと間仕切りを収納できない。僕はホワイエ側を固定壁にしても収納は出てくると思う。

### 三ツ山委員

移動壁のおさめ方は、私がやっているところのギャラリーを一度ご覧頂ければ、こういう感じかというのはわかっていただけと思う。

### 仙田分科会長

では僕の方から新たな質問をさせていただく。広場に面した南側にレストラン、飲食のスペースがとってあるが、それについては今までに議論があったか。

### 設計者 新居千秋氏

そのあたりについては、基本計画でもあまり明瞭ではない。市民の方は3階にも4階にもつくれと言っている。2階からも少し眺められたりすることも検討する。もう少し人が居られる場所をつくらないとガラんとした建物になってしまうので、大スタジオと中スタジオの位置を今の案と入れ替えて、そのあたりのスペースを色々なことに使えるスペースとしていって、出ばった部分を改良して、そこにコーヒーショップと、色々なものを入れたいという人たちがいるので、そういうことが出来る場所は確保しようとしている。

基本計画で決められたものを9割守るとしても、何かについて建築家が何も提案できなければつくりようがないので、僕はそのへんを何かやっていきたい。

さっきのギャラリーのお話しは固定壁にすれば移動壁に比べて安くなるので、そのあたりの面積を400に戻して、動線を限定させていくことは出来る。ただ、何となく色々なところについてフレキシブルに使えたほうがよいと思っているところもある。みんなが色々なアイデアを言うので、確かめようと思って、こういうことをやっている。第1回設計案では、劇場系の方が難しかったので、その他の諸室はまだ検討の余地がある。

僕も建築はアートだと考えている。今は建築だが、僕が出たアメリカの大学はフィン・アートだ。アートの教え方には興味があるので、それはできるだけちゃんとやりたいと考えている。

どこまでどう物を作るのかがすごく難しい。敷地が限定されている。面積も、そのまま作れば10億ちょっとオーバーすることが目に見えてわかっている。僕は、今、全体のコストを含めて議論しないと、必ず破綻すると思う。今みたいに言ってもらえれば、一度削って、その部分を直して、検討していくことができる。しかし、少しソフトの部分がないと、寂しい施設にはなると思う。

#### 仙田分科会長

基本計画と設計については、基本計画を空間として再構成していくのが、建築家の役割だと思う。そういう時に、基本計画に書かれた様々な要件を見直していくことは設計の段階で十分あることだと思う。プロポーザルでは、設計案を固定して考えるものではない。案を出していただきながらも、「設計者」を決めたが、コンペとは違うので、「その案」を固定的なものと考えなくてもよいと思う。最終的な基本設計の案がプロポーザルの段階から変わってもよいのではないかと私は思っている。

#### 桧森委員

私も変わってもよいと思うが、基本計画に示された機能はやはり実現していただきたいという想いはある。ギャラリーの部分などは典型的だが、まずはギャラリーとしての機能を実現してほしいと思う。そこはお考えいただきたい。

#### 仙田分科会長

重要なのは、それぞれの機能が連動することだと思う。市民は、それぞれ個別の目的で来るわけではなく、ついでに来たり、立ち寄り利用など、様々な利用があると思う。そういう、例えば、ついでにお茶を飲んでいくとか、ついでに絵を見ていくとか、そういう感じがうまく全体の構成の中で調整できるような形になるとよいかと思う。

#### 勝又委員

基本計画を見直すというよりも、シェイプアップしていただく形になると思う。それは、やはり、どうこのホールを使うか、管理運営でどういう形にしていくのかということではないか。それがベースとなって、シェイプアップできる部分が見えてくるのではないか。基本設計部会では、どうしても機能とかコストの話になってしまうので、管理運営部会に期待したい。

#### 仙田分科会長

それもそうだと思う。ただし、今回は基本計画そのものが、市民と専門家のみなさんでじっくりと組み上げてきたという時間的な経緯がある。ただ、私自身建築家として、プロポーザル・コンペの中で基本計画を全く無視した案というものも時々見ている。多く

の場合はそういった案は落ちることが多いが、建築家としては必ずしも基本構成によった構成がよいと考えるものでもない。今回のような場合、小田原市は時間的な経緯の中で積み上げてきているので、それはそれなりに尊重すべきだと思う。

もう一つ、優先順位の問題に関係して、今後、基本設計を進めていく中で、文化政策課、文化部だけと打ち合わせをするのは珍しいと思う。普通は担当課である文化部と、いわゆる営繕的な、お金のことしか言わない、あるいは「雨漏りしないように」というようなことしか言わない部署がいる。今回は、行政の側に、よりよい文化的な施設をつくりたいという意思があり、それはよいことだと思うが、やはりお金の問題だとか、技術的な部分を、その文化政策課の職員ではなく、文化部とは違うセクションが関わり、検討していくということが、本当はあった方がよいのではないか。役所側があまりに一元的すぎる。色々な視点で議論をやりあうためには、役所も二元的、多元的になった方が建築家としては本当はよい。なぜ新居さんがお金のことばかり言わなくてはいけなかつかという点、役所側にそういう人がいないという問題があるのではないかと思う。そういう点では、やはり今後の議論の詰め方に関して、そういう点にも配慮が必要ではないか。家、住宅をつくる場合でも、おやじは「こういう家をつくりたい」というのがあって、奥さんの方が「財布はこれしかありません」というという、クライアント側の中に2つの立場があると、全体的にはまとまりやすい印象がある。

### 設計者 新居千秋氏

お金のことを心配しているのは僕しかいないことが心配だ。市民の人と一生懸命話をして、皆と仲良くなって、できそうだという話をしたあとで、全部ダメだということになると、僕はウソつきだという話になってしまう。ちゃんと丁寧に話をして、その中で、決めていきたい。

僕はお金の心配の話をしたのは今回が初めてだ。あまりにも違いすぎる話をみんながしている。これまでに30くらいの公共施設をつくってきたが、今まで一度もお金でミスをしたことはない。その僕が心配だから聞いて下さいと言っているのに、誰も聞いてくれない。これはやはり変だと思うから、嫌われるのを覚悟で言っている。

今日みたいな話が出れば、もうちょっと三ツ山さんとひざ詰めで話ができれば「これくらいで勘弁してくれないか」と言えるが、今では、市民ワーキングでも僕らは説明できず、専門委員にも説明できず、フラストレーションがたまる。膨大な時間ばかりつかって、いい加減にしてくれと思うってしまう時もある。

### 仙田分科会長

最終的には建築家が頑張るしかない。ここでプロポーザルの審査委員長をやった私としては、是非、クライアント側にも、お金のことを心配している人が必要だとは思う。普通は、文化課と建設部局というのは、たいていは仲が良くなく、そういう部分でお互

いに牽制しあいながら、最終的にはうまくできあがっていく。時間的には徐々に処理していくとしても、そういう部分では少し心配なところがあるという感じがする。ここで10分ほど休憩にしたい。

#### 設計者 新居千秋氏

今日、忘れないうちにもう一つだけ聞きたいことがある。ここに30名のオフィスがある。基本計画で30名ということなので、僕らも30名にしているが、なぜ30名なのかわからない。本当に申しわけないが、僕らは貧乏なまちとか、そういったところしかやっていないので、あれほど大きなオフィスをみたのが初めてなので、その根拠を知りたい。それとも縮めてよいのかどうか。何か縮めるところがないと、どこも縮まらない。間違えてはいけないが、僕らは基本計画からすっ飛ばした部屋もない。まだ多めに入っている部屋もある。何を処分していけば皆に納得してもらえるか。かつ、カチカチにしたいわけではない。建築家は、今の設計案の平面を見て、僕がやったとは思わないと思う。通路も狭いと言われているが、ギリギリまで全てを縮めて、今の基本計画の皆さんの意見の諸室を入れていくには相当力量がいる。かなりのスピードでやっていて、今がある。どこかのヒンジがはずれない限り、危ない方に向かって「沈むなあ」と思いながら走っていかなくてはならない。

#### 仙田分科会長

危ない方に向かわないのが建築家である。最後は建築家の責任だ。

#### 設計者 新居千秋氏

何でも僕の責任になるということが最近の悩みである。僕はみんなに好かれて、よかったと言ってもらえるようにやりたい。

#### 仙田分科会長

しかしそれは仕方がない。頑張っていたきたい。ここで休憩とする。

#### <休憩>

#### 仙田分科会長

では議論を再開したい。あと1時間弱で議論を終えたいので、前半の議論で十分にできなかった部分があれば発言をお願いしたい。まとめたことでもかまわない。

#### 市来委員

小ホールについて個人的な考えをお話したい。色々なご意見があると思うし、新居さ

んのご意見もあると思う。ここのホールは音楽に特化していきたかったが、演劇もやるということで多目的になった。それを念頭に置きつつ考えた時に、間口6間、奥行き5間というこのエリアを確保していただいているが、もう少しタイトでありたいというのが、僕の小ホールに対する意見である。それには、今、340席ということだが、それを前から一番後ろまでの座席分含めての2列くらい縮めて、基本計画どおり300席ということにいただき、全体の形をタイトにしてはどうか。それによって、楽屋から管理事務室に至るエリアに少し余裕を持ってもらい、それが、大スタジオと中スタジオを入れ替えた場合にも、管理事務室や倉庫も含めて、色々とよい点をもたらすのではないか。長さで2列分減るとするのは結構なものだと思うが、いかがか。1つのアイデアである。

#### 設計者 新居千秋氏

僕らは、市民の方と話をして、300か350かという意見があった。300を切ると少し小さい。もう一つは、僕らの経験として、この3、4年で400席前後のホールを4つつくった。結局300席の客席はとても小さい。音楽のための気積を稼げない。何管のせるかにもよるが、今、僕らの計算では、これくらいが一番よい音だと思っている。

検討するならば、2案つくってどちらがよいかを見ていただく。

僕の意見は逆に自分の首を絞めていて、面積は小さくする方向であるべきであるが。

#### 市来委員

僕は、小さくする提案をしている。

#### 設計者 新居千秋氏

僕は市民の方に説明をして、皆さんの言っている理想型を目指しますと言ってきた。今の形は少しずつ変更していて、今後も検討を続けていかななくてはいけないが、基本的な方向としては、今くらいの幅と奥行きで340席と考えている。色々な条件を考えた時に300席オーバーでないと、今ここで、皆さんが望んでいる舞台の大きさに対して、音楽をやった場合に響きすぎるとというのが、うちの音響のコンサルタントも含めた考えである。

一度、市来さんのおっしゃった案と両方描いてみて、僕らで勝手に縮めることは出来ないので、両案比べてみて決める。

#### 市来委員

では、この案をつくっていただくようお願いする。僕は、2席×15列を削っても300席は超えていると思っている。2席分ということで、おそらく約90cmだと思うが、それだけでも横に寄せると、事務室やスタジオ関係の諸室が随分始末がよいと思っている。

## 設計者 新居千秋氏

建築家には色々なアイデンティティがあるが、僕は皆の意見を聞いてやろうとしている。黙殺しない。市民の言っている意見をきいて、僕が解釈したのがこの形である。2列削ってみて、どういう性能の違いがあるかをきちんとあたって、自分自身も納得して、それから2列減らす判断をしたい。2列減らした場合に、諸室側にどれくらいメリットがあるかも検討する。今のところは。

## 市来委員

今のところは、それほどメリットはないと判断していらっしゃるということか。

## 設計者 新居千秋氏

ないと思っている。廊下の幅や使い勝手と、小ホールの質のどちらを守るかという判断で、僕らは今のところの判断では、ホールをとった。袖や奥行きについても、けやきホールよりも少し性能がよい。ちゃんとしているものがよいと思った。

300席は非常に難しく、座ると近い。音楽系で言えば、10の3乗ずつの気積をとるとすれば、高さを増していくしかない。要はずんぐりむっくりした劇場にならざるを得ない。そこに座っている未陸がつくった劇場も400席ちょっとの席をつくって縮めた。そうすると奥行き感などが変わる。広すぎても問題があるので、今その比率を調整してやっている。

市来さんのご意見で、一度縮めてみる。縮めて、市民の皆さんに見ていただき、どちらかにしないと、「あのときにあなたが言ったのはウソですか」となってしまう。それはやれない。

大体は出た意見については全部一度検討している。聞いた話では、子ども用のミュージカルをつくるということで、それは勉強にもなるからいいかな、と思う。皆さんの意見をきいて動いている。全体のコストがあうか見つつやっている。今は10200㎡くらいである。面積だけで、建築家だけでお金を処理しようとする、ありえない寸法にしないでほしい。まず、僕は皆さんのテーブルの上に問題を出して、話をしたい。

先ほど仙田先生におっしゃっていただいているように、レストランもスパッと切った方がきれいだし、とにかく入ってきた時にシーンとした建物になってしまわないように、賑やかさとか、趣味がなくてもここに行ってもぼんやりできる場があってよいかなと思って、スタディ中である。

前半の議論で言われたような、管理事務室と会議室の関係を変えるようなことは、ゾーンで部屋をとっている、すぐ出来る。部屋の使い勝手の問題であり、手前に出すことは問題ない。僕はチケットカウンター部分が少し出ているから、オフィスにい

る人たちのプライバシーが守られるなど思っており、今までの経験では、表に出すと、必ず「見えすぎる」と言われ後で壁をつくったりするので、だったら最初から見えないようにと考えただけだ。事務室の受付まわりは、身障者の方の20人乗りエレベータを含めて配置を検討していくつもりである。

今度の10月13日までには間に合わないかもしれないが、どちらにしろ、やってみようと思う。小ホールの2列をつぶすことにどれくらい価値があるか、ちょっとやってみようと思う。また、アートの人と細かく話したいのは、水回りや控室など、どういうことをやりたいかが細かく正確にわかれば、諸室のイメージがだいぶ検討できる。あとは小さい部屋をいくつか作ってほしいなどが、アンケートで出ていたので、それを入れて、全部を、13日には間に合わないかもしれないが、少なくとも一部は検討してみる。

あとは、中スタジオの目的が今一步不明だ。どちら系に偏るかによっても違う。生音でやる場合を主体にするのか。大スタジオと中スタジオはもっと論議が必要である。

今回は、こうやるともっと楽しくなって、基本計画もほとんど変えないでできますというのをみんなに見せられて、そしてみんなで論議をしてもらって決めようかなと思う。

#### 市来委員

今のところ、現状の中スタジオまわりが比較的クローズな感じになっていることが心配だ。

#### 設計者 新居千秋氏

大中スタジオの配置を入れ替えることで、エントランスを入ったところによりスペースをとって、入ってきた時に賑わっている感じがするようにしたい。中スタジオも1つつくるだけで、浮き床などで5000万くらいかかる。それをもう少し簡易な防音くらいにして、裏からつなぐと、もっと練習にもつかえるようになると思う。完璧に部屋を無くすよりも、まず、僕の解釈で基本計画の中に入っているものを減らすことはこれ以上できませんという案が一つつくる。そして、もしそれが、皆が「いい」となれば、お金のことを市長に言っていただくか。今のところ営繕は僕しかいない。だからまわりに、お金は大丈夫ですか、と聞きながらやっている。何で聞いているかという、折角、皆で考えたものなのだからなるべく全部守りたい。

もともと僕らが提案したものから変わってきている。障がい者の方の駐車場を4台もうけて、入り口をそちら側にも設けてある。カフェにも倉庫が必要である。色々なところを少し改良してなんとか捻出していく。

#### 勝又委員

図面の2階の不明な部分があった。

### 設計者 新居千秋氏

ここは託児室だ。子どもを預かるには託児室がないと出来ない。由利本荘の際に秋田中の建物を調べて、この広さがあればよいと許してもらった大きさがあるので、今はその広さを仮として入れている。このくらいの広さがあれば、授乳室もあるし、子どもも遊べる。そして、アート系の創造の人がここに居れば、見張れる。そうしないと子どもをえらく小さいところに詰め込んでしまう。箱ではなくオープンだけれども出られないようなスペースでよい。エレベータの向きなどについては、ストレッチャー対応のものを入れるには向きを変えなくてはいけないので、今、四苦八苦して、このあたりを変えようとしている。前の図面と似ているようで徐々に変わっている。僕の良識で許す範囲で、ここにいる人たちがいられるように、倉庫をとったり、機能できるように改良している。

小ホール側から2階にあがれる階段を検討している。

### 市来委員

それがあると運営上でも、表を通らずに2階にあがれるのは、すごくよい。外でもよい。

### 設計者 新居千秋氏

僕にとっては外ではだめだ。やるからには、ちゃんと濡れないようにちゃんとしなくてはいけない。

### 勝又委員

私は、先ほどの管理運営諸室についてのご質問で、基本計画にあるが、新居さんの設計は上限でやっているということがすごくよくわかった。

### 設計者 新居千秋氏

20人～30人と書いてあるので、30人としている。

### 勝又委員

そのあたりは事務局からお返事いただけないだろうか。当然、今後の検討にもなると思うが、どのようなプロセスで決まるのか。また、ロビーからの見え方についても、もう少しオープンにという話をしたが、それはいかがか。

### 事務局（間瀬）

先ほど、管理事務室に30人は大きいのではないかという話があった。まだ、これは内部で調整をしているところであるが、制作関係のスタッフが全部で25名程度になる。



それから舞台スタッフのチーフを事務の中に入れておきたい。一体感の運営である。それ以外に、大小ホール、ギャラリー同時にということではオーバースペックになるが、大小ホールだけは同時に利用されることはおおいにあり得る。そのスタッフが控える部屋がない。それを全部入れるには、今のスペースでは狭いと思っている。

何故そんなにいるのかについてご説明する。内部で予算要求のベースとして、年間に1本ないし2本の市民参加の自主制作事業、年の10本程度の鑑賞事業、年に10本程度のワークショップも行なう、つまりワークショップが回数では年間60~70回になる。また、美術の企画展を行なう。一般的な市民会館と異なり、ギャラリーに専門職を置く。その職員は利用者に展示方法の説明だけするのではなく、年に1本ないし2本の企画展を行う。その他に、現在も行なっている市内の小学校へのアウトリーチを行なうので、その専門スタッフ含めて、制作スタッフ6名、ギャラリー3名、広報・宣伝2名、貸館スタッフ6名、施設のハード面の管理等も必要になるので総務系4名、各舞台設備のチーフや統括の責任者等々を含めて25名程度としている。

この25名程度は会館のスタッフであり、それ以外でレセプションとして市民グループが活動している。その方達の打ち合わせスペースも必要になり、基本計画の中で言えば創造スタッフ室がその役割を担うとよい。多いときで14~15人が集まる。それ以外にビルメン、警備、舞台技術の委託の方々もいるが、この方達についてはまだ控室がない。もう一つ加えると、新居さんはNHK中継などとよくおっしゃるが、外来スタッフの控室がどこにもない。小屋付きのスタッフ室、外来のスタッフ室が必要になると考えている。

30人でお考えいただいているということなので、なんとか30人分があれば収まるかと思う。また、書類は毎年増える。申請書、打ち合わせの台帳などが毎年増える。私の経験では5年くらいすると小さな部屋が1部屋占領される。裏方が働きやすいスペースにするべきである。市民の発表でも、外部から催しを招聘した際にも、スタッフが働きやすい環境をつくっていくことがとても大事だと思う。

## 勝又委員

今のお話しはわかりやすかった。できればペーパーでいただいた方が、新居さんも設計しやすいのではないかと。管理運営委員会での議論での話だと思う。

## 桧森委員

託児については、基本的には、主催者がそれを必要と認める時に、保育士を雇ってどこかの部屋をつかって託児を行なうものである。常時子どもを預かる場所ではない。会議室などが転用できれば、それでもよいと考える。親子連れが多いと想定されるようなイベントの時に、その主催者が借りて託児室として使える部屋があればよい。

もう一つ、プロポーザルの際に、私が新居さんのプランに結構な点数を入れた理由は、

フリーのスペースが多くあったからだ。先ほどから賑わいの話をされているが、用事がないときも、市民の方が来て、ただで使えるロビースペースに机や椅子があり、そこで自由に打ち合わせができる施設になるとよいと思っている。例えば可見市文化創造センターなどは今、そのように使われている。日々、直接ホールを使う方に限らず、文化団体の打ち合わせなどで使われている。そういうフリーで使える場所があるとよい。折角、プロポーザル時のプランがそのようになっていたので、出来るだけ残していただきたい。それが魅力だったと思う。

もう一つは、大スタジオは何に使うのかという話がある。大ホールの主舞台と同じ広さを備えてリハーサルをすることが一番のメインである。単に演目のリハーサルだけではなくて、大道具を仮組してみるなどのことなどもあると思う。ただし、我々が基本計画で考えたのは、折角そのような技術的な部分ももった設備と平土間があるのだから、そこで小規模な公演ができるとよいということだった。大スタジオという言い方になるが、平土間のスペースにスタッキングの椅子を並べてステージは特にないツラ位置のところでパフォーマンスをすることが考えられる。そのために遮音や、ある程度の照明等舞台設備が欲しいと考える。さらに可能であれば、欲張りたいのがレセプション会場のような使われ方や、もう一つ欲張ってギャラリーの補完もできるとよい。コンテンポラリーアートでは、インスタレーションに加えてパフォーマンスのようなことができないか。そういう欲張りな使い方を想定したのが、この大スタジオである。

### 設計者 新居千秋氏

今の大スタジオのお話しについては、技術的にはできるが、お金的にはできない。大スタジオは100人のスタッキングチェアを入れるというのは聞いていたので、そういうことはできるようにつくってある。

事務局の間瀬さんがおっしゃったように事務所が増えてしまうと、難しい。大ホールは1.15倍にして、みなさんの意見を入れて全部解決していこうとしている。解決するとどこかで破たんするだろう。

先ほど会議室の位置の話があったが、これはもう一点、緊急に体調が悪くなった人の部屋、救護室を兼ねている。これが後ろに行けば行くほど、出演者と出会う可能性が高い。今、救急車が来る可能性があるのは、広場側か搬入側である。そうすると、広場側に出る際には会議室で少し休んでいただく。それを管理事務室と入れ替えるのは、大作業にならないし、お金にも影響しないのでよいが、人数をどうするかというのは難しい。やらない訳ではなく、出た意見は全部やってみる。今、いつも部長に言っているが、お金の枠さえはずしていただければ、僕は何でもできる。

小ホールを細くするかどうかについては、市来さんと見解の違いがあるので、模型をつくって音のシミュレーションをしてみればどちらがよいかわかると思う。そういうことであればよい。

託児スペースについては、僕らの経験では、主催者が借りてやるだけではなく、市民活動で絵とかをやりにくる人がいた時に、その人達の託児スペースは必要だと僕は思った。それで託児スペースをとった。それはいらぬというのであれば、その部分も他の部屋にできる。主催者が借りることもできる。ただ、今まで、特にこの4、5年の経験では、参加したいけれど子どもがいるので参加できないという人たちの訴えが多く、今はとりあえず入れている。減るのであれば、もともとはFMスタジオを描いていたが、無理だろうと思って削った。どちらにしろ、そのあたりの配置は変わる。そのあたりも決めてもらいたい。託児スペースはいつも特定の場所にしないで、移動してよいのだという考え方がよいのか、今僕が提案しているのは色々な人が来た時色々なことに使えるので市民活動にいいと思って入れているものなので、決めていただきたい。

### 桧森委員

基本的にはどこかのスペースが託児室として使えるようになっていけばよいと思う。託児にかかるコストをだれが負担するかという問題がある。イベントなり、ワークショップや会議などの市民活動も、託児にかかる経費はそのイベントの中で負担するしかない。そうすると、会費の中から保育士を一人頼むなど、そういう形になると思う。

### 仙田分科会長

子どもの問題については一言言わせていただきたい。子どもは付加的なものではない。これからの公共施設は、子どもがいるファミリーが気軽に行ける場所であるべきだと思う。ホールだけではなく、あらゆるところで、役所でもそうだと思う。そういう点でも、子どものための居場所が必要だと思う。目的で来るのではなく、施設に遊びに来るといふ感覚が、これからの公共施設には必要だと思う。

### 三ツ山委員

ギャラリーについては、先ほど新居さんのお考えがあったように、動線を裏から引っ張るのは難しいと思う。あとは、前庭とどんな風に連動できるか、搬入も含めて、そのあたりが課題になると思う。子どもがアートに親しむという賑わいの空間だったり、建物の中に入らなくても、広場で親子が過ごして帰れるといったような、水場や汚してもすぐに綺麗にできる部分なども、まだ工夫のしようも面白さもあると思う。

公共施設に限らず、親子、お年寄り、障がい者の方、色々な市民が良い意味で溶け込む風景がよいと思う。特に子どもはじっとしていないので、どんなアクションが楽しい学びにつながっていくかを考えるのは、面白い工夫になると思う。単に着ぐるみを来ておどけて見せるというような話ではなく。歌う、演じる、アートで言うところと描いてみるとかやってみるとか、そういう色々なことがやってみられるかと思う。

具体的にどういう仕掛けというのは、一度、現場見ていただいてお話しできればと思

う。

#### 仙田分科会長

プロポーザルの審査会の中で、新居さんの案の一番の問題点はギャラリーだった。ギャラリーの位置については、良い点の評価もあるが、実際にはオープンにはならず、全部壁になってしまう、それにより広場全体が閉鎖的になってしまうのではないかという心配はあった。これについては、実際に審査会でも議論になった点である。僕は、その部分も含めて、あまりプロポーザル時の案にそれほど縛られる必要はない、こだわらなくて結構と思っている。色々な議論の中で、考えていただいてよいと思う。

新居さんが心配されているお金の問題も含めて、予算の中で抑えるにはこれくらいという案も一度出していただいてはどうか。

#### 設計者 新居千秋氏

半端な金額ではないということが問題である。簡単にはいかない。10月13日までを目安に、少しに僕なりに提案して、削ったものを出す。それである程度金額を読むことができる。ただ、そこから折り返しであり、僕は今現在の単価を見ているが、現に4月に見積もったものが、これまでに何度も見積もりを取り直し、単価が変わっている。

#### 仙田分科会長

今の単価で予算内になんとかできるという部分でよいのではないか。

#### 設計者 新居千秋氏

実施設計がおわるのは1年先になり、その時には消費税も上がってしまう。

#### 仙田分科会長

消費税だけでなく、将来的には、オリンピック招致の問題も東日本大震災からの復興の問題もあるが、その部分については、国全体も建設単価の見直しが出てくるのではないかと思う。

#### 設計者 新居千秋氏

そういうことで、単価が上がることはみんなわかっている。それは僕のせいではないと言ってもらえれば、問題ない。解けない物はない。

#### 仙田分科会長

少なくとも今の時点で、当初の予算にするために、これくらいにすべきではないかという提案をしてはどうか。

### 設計者 新居千秋氏

そうすると小ホールくらいなくなってしまう。僕は何とか着地点を見つけようと思い、色々なところから削れるかどうかを検討している。そうすると、今の大ホール、小ホールもパツパツであり、簡単に言うと、60億でできていたものが、20%コストがあがると72億になってしまう。12億円分削るといのは、半端には削れない。僕の裁量で皆さんの夢を壊さない範囲で減量できることをやっている。そして、その案でコストをはじいている。装飾的なものも出来る限りとろうとしている。しかし限界が見えている。そうすると、僕は手詰まりで、小ホールをふっとばせばできますよ、くらいの金額になってしまう。

### 仙田分科会長

それは極めて極端である。この3月に新居さんにやってもらおうと決めた段階から、この約6か月の間で、それだけのコストが上がったという理由がとれるのであれば、それはありうると思う。

ただ、もともと3月に新居さんが出された案が60億をオーバーするのであれば困る。

### 設計者 新居千秋氏

3月の時点で出した案は、その後、皆が足した物を除けば、60億で収まっている。

僕が何回も警鐘を鳴らしているのは、単純に消費税が5%挙がって、物価が挙がっていることが。

### 仙田分科会長

ただ、消費税の問題、様々な条件的な問題は別である。

3月からこの6ヶ月くらいの中にコストが上がっていることは確かである。確かに10%くらい上がっている。ただ、そうかといって、それは小ホールをすっとばさなくてはいけないという状況では僕はないと思う。

### 設計者 新居千秋氏

僕は小ホールをとばそうとしているわけではない。何とかやろうとしている。僕も、もう少し豊かな建築の方がよいと思う。今、僕らが徹底的にやっているのは、僕らの建築家としての無駄なスペースを自分で全部切っている。見ていただいてもないと思う。もうひとつ、お堀端通りから20mのセットバックを説明している。展示場は流行ると、閉じる。自分でもわかっている。でも、全体にどこかないかを見ていっても、外から中に触れる場所がなかなか存在しない。

一つだけ、20mのラインを角度を変えてふるという手がある。それは出来る。ただ、

前から 15m 以上建てないなどの色々な条件や事情があり、それを破ってよければ出来る可能性がある。ただ、そのかわりそこに行く動線も増える。

今は、僕は、なるべく兼用して、動線を少なくしている。それで、プロポーザル時の 10700 m<sup>2</sup>から 500 m<sup>2</sup>以上削ったが、入っている部屋は前よりも多い。毎回、みなさんのおっしゃる部屋を足しているから。最初の案と比べていただければ、全ての部屋も大きくなっている。全体で 1.15 倍、15%くらい部屋は大きくなっている。

最終的には、オーケストラピットがいらないという市民の人たちと、いるという市民の人たちがいる。それをどうするか。オーケストラピットがいると言ったとたんに、コストが約 1.2 億あがる。そういうことを計算しながら毎日が進んでいる。

次回、20m のラインを超えて良いかどうかというのを提案して、それは市民の人たちの判断に委ねる。色々な建築家がいるが、僕はルールとか条件は遵守すると決めている。皆がそれを「解除」と言ったら、そこについては出来ることは広がる。

仙田先生がおっしゃったとおり、ギャラリーについては自分でも弱点であることはわかっている。実際には 15m ラインもある。全体で建築的にどうかという問題もある。

例えば、今、事務局の間瀬さんが言った部屋を足していけば、現状ではたぶん済まない。基本計画よりもどんどん増えている。25 人の他に、他の部屋をつくると、40~50 人の体制ということになるが、本当に僕らはそんな経験がない。本当にそんな運営体制でやるのだろうか。その辺も決めてもらわないとわからない。

当面、僕がやることは、みなさんの意見を聞いて、減らせるだけ減らすことだ。

ただ、桧森さんと違うのは、仙田さんと同じで、子どものことへのスタンスも考えた時に、子どもの一時預かりは、子どもを特殊化せず、やはり入れたほうがよいと思う。僕の意見で入っているとすれば、それくらいのもんだ。あとは何もない。

## 仙田分科会長

それでもやはり建築家は、市長の視点にも立たなくてはいけないし、かつ、市民の視点、あるいはそこで管理運営する人の視点にも立たなくてはならず、色々な視点から、最終的には決断していかなくてはいけない。そういう意味では、何というか、嫌われても、あるいは当初あったルールについても、「こういう風にしたら、より小田原市のためになる」というふうに考えたら、提案していただいてよいと思う。

## 設計者 新居千秋氏

13 日には、位置を変えるくらいで、何かを大胆になくすことはしない。僕の考えではまず 10 月までは、お金の問題もあるが、皆の意見を入れて、このへんが大体使いやすいのではないかというのを示していく。以前は、簡単に思いつきで変更できないので、市民の人にアンケートで意見を全て出してもらって、聞いていった。それはほとんど終わったと思う。今度は専門委員の方の意見で、それも大体終わって、だんだん面積も決

まってきた。自分で予測すると、基本計画や皆さんの理想を守る限り、10200 をきるのはなかなか難しい。プロポーザル時には全てガラスにしていたが、今はそれをとってしまおうと思っている。ガラスをあきらめてコンクリートの壁がガンと立つようにして、金額がどこまで落ちるかやってみる。あるいはガラスを少しずつ残していくかもしれない。バリエーションはあるが、いずれにしろ、今の状態で、僕が言えるのは、そのくらいの面積しかお金が足りていないということだ。やらないと言っているわけではない。

#### 仙田分科会長

構造は誰がやるのか。

#### 設計者 新居千秋氏

今田。

#### 仙田分科会長

今田さん。やはり、今の段階でも、図面をシングルラインではなく、ある種の構造的な柱を出していく必要があると思う。

#### 設計者 新居千秋氏

これはシングルラインで描いているが、申し訳ないが、全部普通の図面を描いて、トイレの数も、壁の厚みも計算している。そうでなければ積算など出来ない。実施設計レベルで4回もやって、クタクタになっている。

#### 仙田分科会長

そういうものは、もったきちんと見せた方がよいのではないか。オープンに出した方がよい。

#### 設計者 新居千秋氏

それはできない。僕らは、いつも柱ではなく壁でつくっている。図面については、うちに来ていただければお見せしてもかまわない。ただ、誰かを誘導するとかという問題があるから出せない。ただ、きちんとやってある。僕が何か物を言っている時には、この建物の側壁の厚みはいくらで、そこに防音壁がいくら、という、そのくらいのレベルでやっている。僕らが、いまだかつてお金があわないことがなかったというのは、大体基本設計の時のレベルが、実施設計のレベルに近いからだ。先ほど、客席の視線検討の絵をお見せしたが、あれば、コンピューターに4か月かけてデータを入れて、ずっと一人が電話帳の厚さになるくらいまでやっている。僕らが引き受けたからには、音の悪い物につくれない。他にも何か言われたら全部検討していく。色々な建築家がいるが、僕

は、かなりマジな方だ。

#### 仙田分科会長

そういう人を選んだつもりでいる。

#### 設計者 新居千秋氏

そういうことについてやってはいる。ただ、プレッシャーがすごい。全部のお金をお前が責任を持つというのが、僕のプレッシャーになっているだけである。

#### 仙田分科会長

プレッシャーは当然かける。

#### 設計者 新居千秋氏

それでも、60億で皆の意見を満足できる方法はないかと毎日考えている。少しずつ出来ないところをとっている。僕らが出している単線の図面でもよく比較してもらえば、全室の大きさと場所が違うから、この図面は、1回1回全部描いている、変えてつくっている、適当にやったのではないとわかる。微妙に倉庫や何かが増えているのは、例えば客席をつくりたいと言った時に、イスをばらした際に入るかどうかを検証して、入れているから大きさが違う。

デティールの話は別として、大もとの話は、僕らがつかみにくいのは、市民ホールと芸術ホールとの間の乖離がすごくあるから、そのへんを聞いていきたい。何の目的でこういうホールをつくるのか若干不明瞭なところがあり、例えば、これまでに僕らがやった秋田などは、そのまちに何か1個つくって、人を呼んで、ちゃんとやれる場所をつくりたいということがあった。ここでは、半分くらいはかなり芸術性の高いものをつくっていて、それを満足しなくてはいけないということと、皆が言っている話が混乱してしまっているために、今、僕らがやっていることはあれでしょうか、これでしょうかと聞いていっている。それが全部わかったら一気に変えようと思っている。

大体自分で内容が理解できたところから変えていこうと思っている。

#### 仙田分科会長

次の機会に、新居さんの方で「こうしたい」という、そういうベースを出していただければよいと思う。

#### 桧森委員

芸術文化創造センターという意味は、複合施設であるということだ。ホールだけではなくて、ギャラリーもあり、様々なスペースで、市民の創造活動ができる場所でもあり、



質の高い芸術を鑑賞したり創造したりすることもできる場所でもあるということだ。ただ、がらんだのホールがある、というわけではない。だから、ソフトとしては、このホールが自ら主催する自主事業が、パフォーマンス公演だけでなく、ギャラリーも、大スタジオ、小スタジオ、ワークショップルームも使った形で様々に行なわれる。市民に貸すだけではなくて、このホール自体の事業として行なわれる、そういう場所だと思っていただけるとよい。

削るところはまだあるように見える。先ほど市来さんがおっしゃったように、小ホールは300席でいいし、ギャラリーも展示スペースは350㎡確保できていればよい。

### 設計者 新居千秋氏

自分で、そういうものを理解して、でも、もう少し頑張れば子どものスペースもとれるかなと思えば、僕としては聞いた範囲の中で、自分たちの経験の中でよりよい物があって、それをやろうと思っている。なかなか自分で決着もつかない。

例えば、お話を聞けば、子どもの教育のためにもギャラリー機能に水回りがあった方が僕もよいと思う。でも、350㎡を絶対削れないなら、ギャラリーを削るのではなく、その水回りは2階に上げられないかとか、そういう話をこれからしていきたい。

僕らはこれまでホール施設は結構沢山手がけている。ギャラリーもついている。ただ、他の違いを若干感じるの、ひとつひとつがハイスペックである。もしもわからない建築家がやれば、そういったことはやらないか、あるいは後でごめんなさいと言うかだと思ふ。僕らは、経験があるが故に、市来さんはきょう考えていると思つて、色々なことを検討する。そして、直接お話しをすると、やはり自分でも階段は必要だなと思ふから入れる。あるいは僕が思わなくてもうちの人が入れている。

今の状況は、大体、皆のやりたいところがおおよそ収つて、もうすこし個別で聞いて、13日までに一度まとめる。ただ、仙田さんとお約束できるのは、今のお金で、僕らが3月時点で計算したものであればできます。そこから先は、どうしようかと。

### 仙田分科会長

それは、今の時点で考えるべきだ。3月時点で行なつた積算的な状況からすると、今の時点で確かに上がつている。10%くらいあがつているかもしれない。20%、30%というような形はたぶん容認できないと思ふ。実際問題として、こちらの予算に抑えなくてはいけないのであれば、建物の方を10%くらい縮減しなくてはいけない。難しくても、それを具体的に提示して、市民の皆さんと一緒に考えていくことが必要なのではないか。

### 設計者 新居千秋氏

今、僕はそれをやりたい。先生もおっしゃるように、3月から今までの10%上がつている。今、僕はそれを補正しながら、何とかあと5%の消費税のところまではカバー出

来るように戦っている。実際には3%上がったあと2%上がるから8%まで必ず上がる。

#### 仙田分科会長

だから、それは、それとしてその時の状況で考えればよいことである。それでも、実際に我々が設計する場合でも、予算を10%削減するということは、全体の枠組みを大きく変えなくても、それなりに調整できる部分がある。

#### 設計者 新居千秋氏

だから面積を削っている。

#### 仙田分科会長

面積を削らなくても、工事費の10%という部分であれば、我々は積算の中で仕様だとか、様々な部分を変更するなど、努力目標としてはできないことはない。

#### 設計者 新居千秋氏

僕は努力目標を含めても難しいと思っている。

#### 仙田分科会長

その警告はわかる。ただ、もし本当にそうならば、今の段階で将来的に発注する時には、今の予算を死守するならば、これくらいの形にならざるを得ないというような案も提出しながら、議論していく必要があるのではないかと思う。

#### 設計者 新居千秋氏

僕らが提出した資料を仙田さんは全てはみていない。僕らは適当に工費をいくらとやっているわけではなく、全室拾ってみた。それをやった上で、実際になかなか難しいと言っている。

#### 仙田分科会長

3月時点からこの9月の時点の6ヶ月間での工事費の上昇は、日本全体として10%くらい上がっていることは確かである。ただ、一般的に考えると、そのくらいは、苦しいけれども調整できない範囲ではない。そう思う。

#### 設計者 新居千秋氏

何かとってしまえば出来る。

#### 仙田分科会長

あるいは、仕様を考える。

**設計者 新居千秋氏**

とってしまうというのは、後でバトンでも何でも、そういったものを足すことはこれからできると思う。

**仙田分科会長**

最初に提案したように、優先順位が、面積的なところや大きさに関わってくる部分については、優先順位をつけていくということを提示していくのは必要だ。

**設計者 新居千秋氏**

今の面積の中でやっていくが、皆が理解してくればよいということだ。

**仙田分科会長**

ただ、これも初めに申し上げたが、文化部で責任を全て負うのはとてもしんどい話だと思う。小田原市の方でも、これを現実的なものとして今後、議会などの承認を経ていくのに、ある種の優先順位やエクスキューズをきちっと考えながら進めていくことも必要だと考える。

**桧森委員**

最後に一つだけ確認させていただきたい。基本計画には、大ホールのオーケストラピットは入っている。これは、オーケストラピットと言っても可動客席みたいな形であり、その分のイスがとれるということだが、先ほど、それを入れないというお話しがあったのは、そういう決断をしてくれということか。

**設計者 新居千秋氏**

いや、基本計画にオーケストラピットは入っているが、手動か電動は書かれていない。だから手動では入っている。それをどうするかということだ。では自動は検討していないかという、自動も検討している。もしも僕に手動と自動とどっちがよいかと聞かれたら、自動の方がよい。だから、自動も検討している。でもお金がなければどうするかということもあり、他を削れるかどうかをやっている。意見が出たものについては全て検討するが、最後には手動にするか自動にするかそのくらいは決断しないといけない。一応、僕の範囲では、皆の言っていることは出来るだけ多く入れて、そこから先でどうにかする。できればなるべく 60 億に近づけて理由がたつところを含めてあげる。簡単ではない。

あとは、今のところ、全ての人が減らす方ではなく増やす方で発言をしているから、

それは少し聞いてくれないかというところだ。単純に答えるとそのくらいだから、何か考えて一生懸命やる。

僕らはガラスをとったらどうなるかとか、ただ潮風もあるからコンクリートそのままではまずいだろうとか、色々研究するのに半年ちょっとかかる。そのものの費用をどこかでとるなりする。僕のやれる限界は、僕の想定したイメージで、付加物で入っているものはとる。そこから先、とれない物については、皆にちゃんと聞いてもらわないとできないということだ。

これまでの経験では、僕らが主体的にワークショップをやっている場合には、市民の人たちと直接話して「これはやめましょう」と言えた。ざっくばらんに、やるかやらないか、どうするか検討できる。ただ、今は仕組みが違うので、僕は聞いていて、皆さんの回答が出たあとからしか、回答ができない仕組みになっている。そこが難しい。

諦めたと言っているわけではない。オケビがあって、その後ろに倉庫も必要だと皆、言っている。僕が言っているのは、そういうものを全て入れた中で、吸収して、60億をきるところまで、今の最初の段階でもっていきますが、そこから先の消費税や物価上昇は僕の限界を超えるということを理解してもらえればよい。やらないわけではない。

引き受けたら最強のものをつくりたいと思う。市民の方が望んでいるものはなるべく守りたい。そう言っておいて、後でとるのは残念なので、そういうことをしないですむように頑張りたい。

役所の人には、展示場を斜めにすると、20mのラインをオーバーしてくるので、市民の人にウソをつくことになるので、できないということを言いたい。仙田さんからもご指摘があったが、僕も展示場については悩んでいる。展示場が流行れば流行るほど、壁になり、実際に僕らがああいうものを提案したまちでは95%稼働しているために、ずっと外が見られないということがあり、自分でも、流行るのも問題だし、流行らないもの問題で、そういうものがいっぱいある。

## 仙田分科会

僕は、先ほど言ったように、ある種の基準についても、「こういう風にしたら」という新しい見方を提案するのも建築家の役割だと思う。何でもかんでも建築家の責任にするわけではないが、是非頑張っていたきたい。

今日はそんなところで閉めさせていただきたい。どうもありがとうございました。またよろしくお願ひします。事務局から何かありますか。

## 次第3 閉会

### 事務局

ありがとうございました。次回の分科会は10月30日を予定している。第2回設計案が10月13日を目標に頑張っていたいでいる。それを受けて市民ワーキングを行った

のちに、この専門分科会を行なう形にしたい。

また、今日、もしも、何かご意見等、付け足したいことがあれば事務局に送っていた  
できれば有り難い。

**仙田分科会長**

では、改めて閉会します。ありがとうございました。

以上